

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部図書館報

# RENDEZVOUS

## (ランデブー)

### 「未来の図書館は何を提供するか」

人間教育学部 児童教育学科  
教授 芹澤 剛



啄木が文筆活動を始めた明治35年頃から晩年の45年にかけての1000日分ほどの日記が全集(筑摩書房)に収められている。

日記は、詩歌や書簡に比べ形式的制約が少なく、小説ほどには時代の影響を受けにくい。公表を予定しないものは文章に作為も少ない。書き手の言語意識を読み取るには都合がよい。読み始めて気がつくと、啄木という人間そのものに接近している。それは記録された日々の出来事ではなく、文体改造に苦しむ姿をとおしてである。

村上春樹は、文体は生き方だという(少年カフカ)。言文一致の潮流の中とはいえ、文語体から口語体へと文体を変えることは容易ではなからう。行きつ戻りつを繰り返す。ある年にはローマ字で日記を綴っている。焦燥の感が伝わってくる。自分を変えることに苦しみ、乗り越えようとする人間の姿がある。

辞書は調べるための書物であるが、やはり人間を考えてしまう。

和名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)は10世紀前半に編まれ、「天」「地」「水」のように意味分野ごとに漢語を整理し一語ずつに注釈を施す。注釈の中に、その漢語に対応する当時の日本語が見える。源氏物語や枕草子などでは使われないものも多い。

「拇」「食指」「中指」「無名指」「季指」は指の漢語名称である。各語の注釈に見える、対応する日本語は順に、オホオヨビ、ヒトサシノオヨビ、ナカノオヨビ、ナナシノオヨビ、コオヨビである。名称の有無は人間の意識がそれに向かっているかどうかによる。意識が向き、他のものと区別する必要があれば名称が生まれる。名称は付した人間の文化の影響下にあるので、同一物でも異なるのが一般的である。机は日本語ではツクエ、英語ではdeskというように異なる。

指の名称は形や位置、役割などの観点で与えられているが、古代人は第4指には冷淡であったよ

うである。日本語でベニサシユビやクスシユビ・クスリユビが出てくるのは500年ほど後である。名称は、私たちが物事をどのように捉えているかを映している。

以上は、書物と読み手である私個人の交渉である。個人の交渉が、書物を介した読み手同士の交渉に発展するとまた別のおもしろさがある。同好の士の集まりである。字数制限の中で、不十分な表現に自分を押し込めてつぶやくのではない。自分の解釈・考察・感想を、持っていることばを駆使して、そこに集う仲間と交換するのである。

私は鉄腕アトムで未来社会を思い描いた一人である。そういう社会では書物という形態はなくなっているであろうことは想像に難くない。デジタル技術とインターネット環境が高度・拡大化し続ける現状を踏まえ、何年か先のごく近い未来社会の書物はどのようになっているのか無責任に想像してみる。

刊行物はすべて電子版になり、紙の書物はその感触と重さを楽しむ人々のためにわずかに作られるだけになる。既存の刊行物もすべて電子化される。新古いずれも購入はネット上で行う。ネットの活用はすでに一般的になっている。書店は店頭での書物販売をなくし、わずかに作られた希少価値のある書物を取り揃え自由に閲覧できるようにする。そして、大手コーヒーチェーン店と提携し、紙の感触を楽しみたい人が上質の時間を過ごせるようなサロンの空間になっている。待ち合わせをする人が紛れ込んでもよい。職場、家庭ではない第3の空間を提供するのである。

さて、図書館である。専門書も例外ではない。貸し出しはファイルで行い、返却は不要になる。期限が来るとロックがかかり、見られなくなる。書架も要らなくなる。

そのようになった時、未来の図書館はどのような場所になり、私たちに何を提供してくれるのだろうか。

# News & Topics

## 「利用しやすい図書館をめざして」

ー図書資料を見やすく、探しやすく、使いやすくー

本図書館（1965年創設）は、学生数2,000名ほどに対し、蔵書数約29万冊、逐次刊行物約1,200タイトル、視聴覚資料約14,000点、電子ジャーナル(フルテキスト)約2,000タイトルの図書資料を提供している。

文学部として開学された経緯から、近松門左衛門の浄瑠璃や万葉集およびその周辺に関する写本・版本を蔵する吉永文庫、「ヴィクトリア朝英国詩集」のコレクション、文学者の個人全集など、文学関係の資料が充実しているが、現在は、学部新設による新たな蔵書群の充実を進めながら、図書資料の有効的な活用促進に重点を置いている。

学習支援面では、学年進行に対応した「図書館利用ガイダンス」や「相互利用」等のレファレンスサービスに加え、図書館情報ポータルサイト「My Library」によりサービスの拡充に努めている。とくに重要視していることは、学習に必要な図書がほしいときにすぐに手に入る環境づくりである。現在、実習支援室などを対象とした「別置図書制度」により、実習、国家試験、資格試験、採用試験等に役立つ図書の配置をおこなっている。また、図書資料への興味・関心が高まるよう、書店にて直接図書を選ぶ「選書ツアー」等のイベントも開催している。地域貢献面では、尼崎市、伊丹市、西宮市在住の市民を対象とした地域開放。施設設備面では、定期的な図書整理・蔵書点検により固定資産の把握をおこない、不明図書の補充、重複図書資料の除却等収納スペースの確保と図書資料探索の迅速化に努めている。

### 2011年度

- ・全館書庫整理・移動（3年計画1年目）：電動式集密書架内「和雑誌」1,156タイトル
- ・「雑誌架」配列変更、「年鑑・白書コーナー」新設
- ・重複図書資料等の除却 5,954冊
- ・地域開放（伊丹市・西宮市へ拡充）登録者数 85名（新規64名・更新21名）
- ・学生との協働による図書館利用促進ポスターの制作
- ・図書館ホームページリニューアル
- ・図書館利用ガイド・フロアマップの制作



### 2012年度

- ・全館書庫整理・移動（3年計画2年目）：電動式集密書架内「洋雑誌」約260タイトル、「和図書」4階(NDC 920~999)約1万冊・5階(NDC 000~139)約1万冊を5階電動式集密書架に移動
- 4階・5階「和図書」全体の移動（約1万冊）
- ・図書館3階フロア配置変更：図書資料展示ブース（特設コーナーの設置）



### 2013年度（予定）

- ・全館書庫整理・移動（3年計画3年目）：4階・5階を中心に、昨年度までできなかった分を実施
- ・図書資料展示ブース（特設コーナー）：3階フロアに常設し、定期的に内容を変更
- ・NDC（日本十進分類法）9版による分類番号の見直し



# 『My Library (学生・教職員専用ページ)』を活用しよう！－文献複写・図書貸借依頼編－

## 【文献複写・図書貸借とは】

### ・文献複写

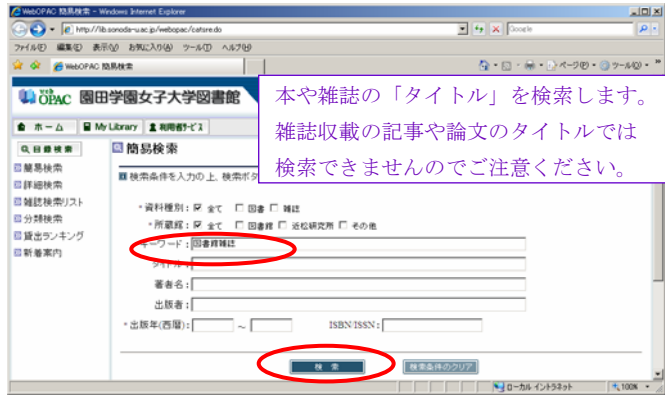
本学に所蔵していない資料のコピーを、他機関から取寄せることができます。

### ・図書貸借

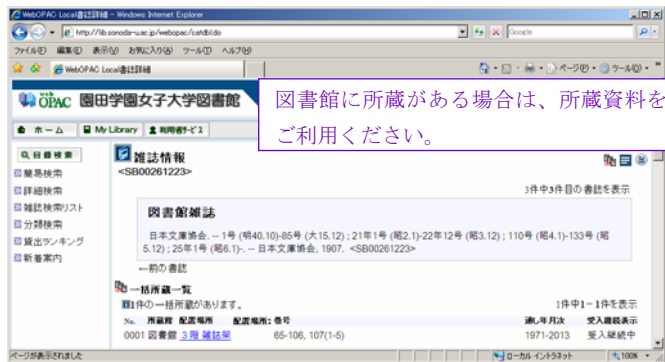
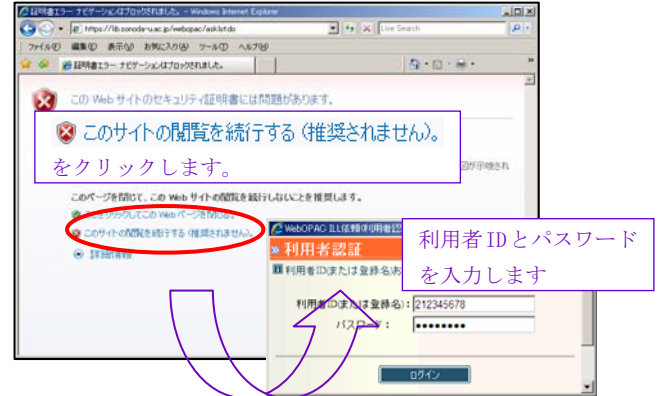
本学に所蔵していない図書（雑誌は不可）を他機関から借出し、図書館内で利用できます。

## 【申込み手順】

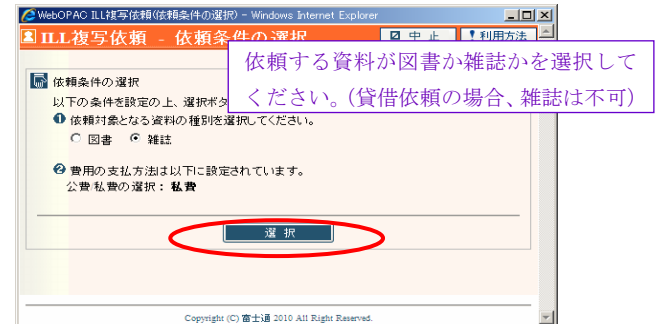
### ①資料が図書館にあるか OPAC (蔵書検索) で検索



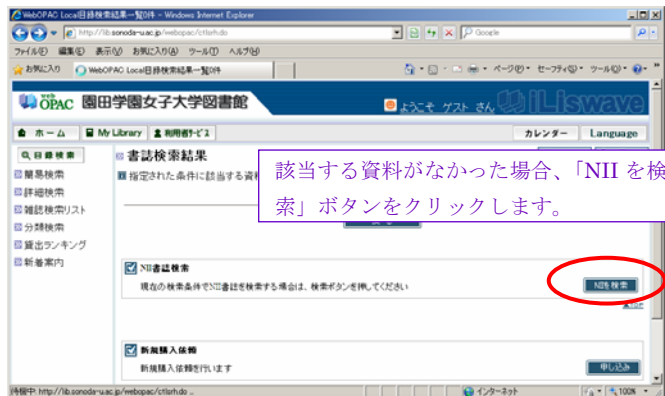
### ④セキュリティ上の確認および利用者認証



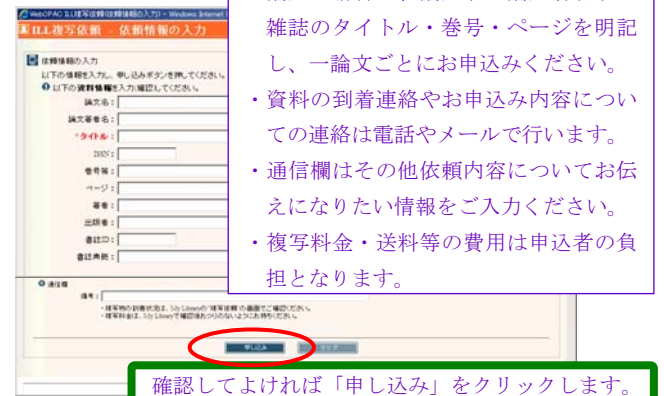
### ⑤依頼条件の選択



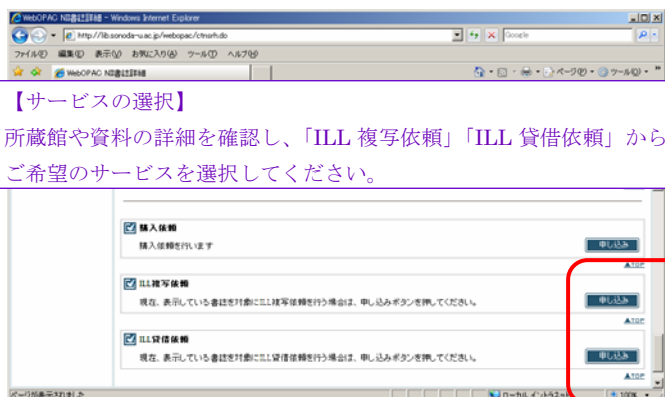
### ②NII を検索



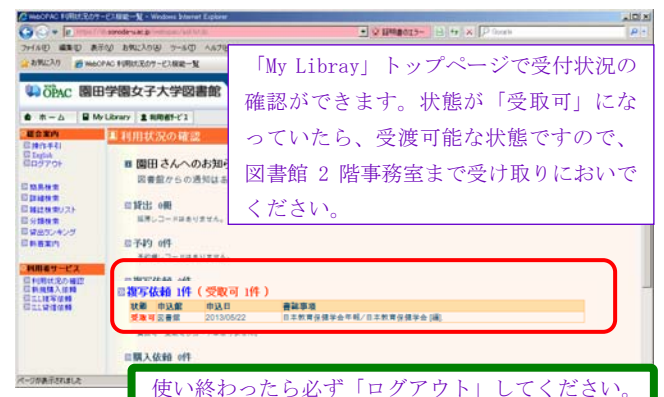
### ⑥依頼情報の入力



### ③申込み

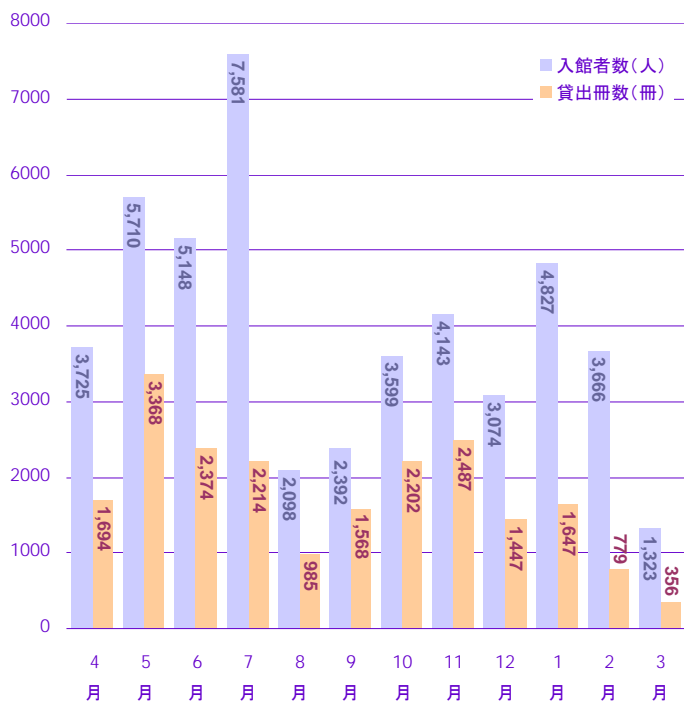


### 【申込み内容の確認】

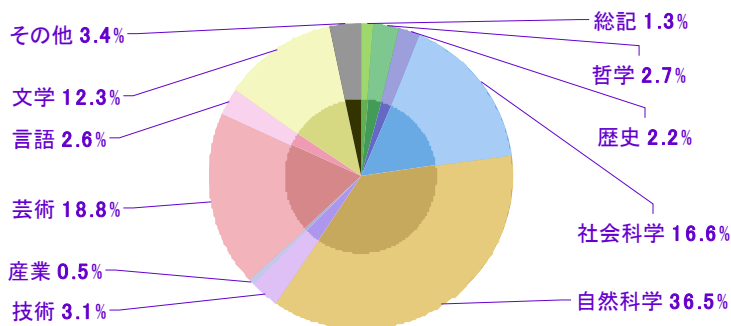


# Library Data (2012年度 利用統計)

## 《図書館 月別入館者数/貸出冊数》



## 《図書館 分野別貸出比率》



## 《貸出状況》 近松研究所含む ( )内 2011年度

利用者区分	貸出冊数	利用者数
学 生	12,659 冊 (14,337)	5,761 人 (6,730)
教 職 員	3,137 冊 (3,615)	1,057 人 (1,152)
そ の 他	5,438 冊 (6,499)	2,380 人 (2,897)
合 計	21,234 冊 (24,451)	9,198 人 (10,779)

## 《受入状況》 近松研究所含む ( )内 2011年度

資料区分	受 入 数	累 計
図 書	和 書 3,409 冊 (4,043)	246,207 冊 (245,264)
	洋 書 88 冊 (63)	41,131 冊 (41,103)
	合 計	3,497 冊 (4,106)
逐次刊行物	330 タイトル (385)	1,184 タイトル (1,285)
視聴覚資料	486 点 (476)	14,574 点 (14,171)

## 《相互協力利用状況》 ( )内 2011年度

利用区分	受 付	依 頼
文献複写	392 件 (365)	600 件 (606)
図書貸借	23 件 (25)	5 件 (7)
閲 覧	1 件 (0)	1 件 (0)
合 計	416 件 (390)	606 件 (613)

《AVブースコーナー 視聴数》 2,191 件

《レファレンス (文献所在調査・利用指導など)》 377 件

### 編集後記

図書館で日々業務を行っている中、さまざまな分野の本が所狭しとひしめきあっている様子や、その特有の匂いも合わさって、ここでなら自分に合った一冊の本を探し出せるような気がします。

図書館職員一同は、皆さんのご要望に応じて使いやすい図書館をめざしています。

ぜひお好みの一冊を探しにお出てください。

(古谷・灘井)

**RENDEZVOUS** 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部図書館報 No.40

【発行日】平成 25 年 6 月 30 日 発行所 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部図書館  
〒661-8520 尼崎市南塚口町 7 丁目 29-1 Tel : 06-6429-9931 Fax : 06-6429-2822  
<http://www.sonoda-u.ac.jp/tosyo/> E-mail: lib@sonoda-u.ac.jp

### 誌名「RENDEZVOUS」の由来

1998年3月発行の25号から「図書館ニュース」を誌名変更。一谷宣宏理事長の命名によるもので、「図書館は、様々な知との出逢いの場であり、本学を離れて後もその知が必要となきには出逢いを求めて来ることができるところ」の意味を持っている。